



あおくんときいろちゃん

レオ・レオーニ 作 藤田 圭雄 訳

至光社 1967年 1260円

1冊 21×21cm

あおくんにはたくさんのおともだちがいます。なかでもいちばんのおともだちは、きいろちゃんです。ある日、おうちで留守番していたあおくんはきいろちゃんと遊びたくなって、きいろちゃんのところに行きます。ところがきいろちゃんはいません。さがして歩くうちに、ぱったりきいろちゃんにであい、うれしくなったふたりは混ざり合ってみどりになりました。しばらくふたりはみどりのままで遊んでいましたが…。

古典中の古典といわれるこの作品ですが、色の楽しさ、混ざり合いの不思議、物語の深さはいつまでも褪せることはありません。



あかいふうせん

イエラ・マリ さく

ほるぷ出版 1976年 999円

32ページ 22×22cm

目にあざやかな赤いふうせん。ふうせんがりんごになり、りんごが蝶になり、蝶が花になり…。形が変わっていく楽しさ、モノクロの線画に浮かぶ赤。小さな赤ちゃんでも興味を示す一冊です。言葉がないので、子どもとやりとりをしながら、自由に物語をつくるのも楽しいでしょう。